

鞍手町水道事業 中期経営計画に基づく取り組みについて (平成17年度～18年度)

■中期財政計画について

・収益的収支及び資本的収支 (単位:千円)

		H17年度		H18年度		
		計画	決算	計画	決算見込	
収益的 収支	収入	料金等	395,648	415,215	353,272	336,314
		他会計補助金等	21,183	21,201	16,714	17,534
	支出	人件費	84,421	84,721	88,296	82,047
		物件費	312,829	329,744	277,393	242,498
	収支		19,401	21,951	4,297	29,307
資本的 収支	収入	企業債	0	0	0	0
		他会計補助金等	19,787	19,787	29,161	12,151
		他会計借入金等	0	0	0	0
		国補助金	0	0	0	0
		県補助金	0	0	0	0
	支出	建設改良費等	39,004	39,004	81,423	52,533
		企業債償還金	87,895	87,895	79,002	79,002
	収支		▲107,112	▲107,112	▲131,264	▲119,384

平成17年度水道事業の収益的収支は、21,951千円の黒字決算、資本的収支の差額107,112千円は当年度分損益勘定留保資金で補填し、損益計算においては当期純利益18,400千円を確保しました。また、平成18年度の収益的収支は29,307千円の黒字決算、資本的収支の差額119,384千円は同様に補填し、当期純利益26,095千円を確保しています。

■主な取り組みについて

1. 鞍手町水道水質改善検討委員会について

本町の水道水源である浮洲池は、上流の力丸ダム・犬鳴ダムの放流水等が遠賀川水系犬鳴川に流れ込み、直方市植木の花ノ木堰より、山田川用水路を經由して、鞍手町、中間市の行政境である浮洲池に流入しています。

浮洲池(面積131,000m²、総貯水量560,000m³)には、上流の生活排水等が流れ込み、しかも、平均水深4.3m程度と浅いため、富栄養化が進み四季を通して微生物(藻類)が発生し、これが水源水質の悪化の要因と考えられます。

その解決策として、中間市上下水道局と共同で、水源水質改善装置(藻類抑制装置7基)を設置稼働し、微生物(藻類)の抑制に努め、水質の悪化を防いでいますが、抜本的な解決策になっていないのが現状です。

本町の浄水場は、凝集沈殿処理+急速ろ過処理+粒状活性炭処理+塩素滅菌処理を経て浄水工程とする施設であります。

しかし、水源での微生物(藻類)や有機質が多いため、濁度も高く、沈殿池での凝集沈殿の際、フロックが浮上スカムとなり、その量が多く適正な凝集沈殿が困難な状況であります。

その事から、急速ろ過池や粒状活性炭施設において逆洗・放流が多く、種々の障害が生じ、適正な浄水(水道法 臭気項目であるジェオスミン・2-メチルイソボルネオール)(クリプトスポリジウム・ジアルジア)を得る為に、浄水作業や水質管理に苦慮しているのが現状であります。

その様なことから、水道水質の向上を図ることを目的として、鞍手町附属機関設置条例に基づき、鞍手町水道水質改善検討委員会（町議会代表者 3 名、住民代表者 4 名、学識経験を有する者 2 名、行政代表者 1 名）では、平成 17 年度に 7 回、平成 18 年度に 4 回の会議を開催し、調査・検討を行いました。

(1). 検討課題と検討結果の主な内容について

- ①水質の検討
 - ・水質試験の検討
 - ・生物試験の検討

浮洲池の、過去原水水質検査（40 項目）の結果並びに生物検査等の結果を検証したことにより、上流域及び本町の下水道事業の促進を図るとともに、水源池周辺の環境整備に努めること、また、中間市と共同で、将来、浮洲池の浚渫等を実施し、水質改善に努めていかなければなりません。

- ②浄水場施設の検討
 - ・前処理施設の検討
 - ・排水処理施設の検討
 - ・急速ろ過施設の検討

沈殿池に、多量のフロックが浮上し、堆積しているため、沈殿池の効果が発揮されていません。また、急速ろ過池の、ろ過閉塞も頻繁に発生するため、逆洗・放流が取水量の 1 割以上と水の損失が多く、水質管理も十分ではありません。

よって、その解消のためには、沈殿池の微生物（藻類）を除去してやれば、浄水処理工程が本来の姿になり、将来的にも、より水質基準に適合した安心な水を提供できるようになります。

前処理施設＋凝集沈殿処理＋急速ろ過処理＋粒状活性炭処理＋排水処理施設＋塩素滅菌処理

- ③水源の検討
 - ・木月池水質水量の検討
 - ・浮洲池水質水量の検討

現在浮洲池から取水し浄水していますが、「木月池も水源として使えないか」という意見があり、浮洲池と木月池の水質検査を、同時に実施しました。

水質試験検査結果では、浮洲池の方が優位でした。水量については、浮洲池は、四季を通じて水量がありますが、木月池は四季を通じて水量がありません。また、水源を変えた場合、水利権取水施設などの建設費に、巨額の費用が必要となります。

なお、予備水源がある方が災害時に有効です。

- ④事業費の検討
 - ・水道料金の検討
 - ・事業費の検討
 - ・起債の検討

事業費等は、概算工事費等が出た時点で、検討することとしています。

(2). 今後の取り組みについて

平成 18 年 12 月 4 日に、町長に対し「水道諸施設を整備し、将来的に、水道受益者のため安全安心の水道水を安定供給すること」とする上記の内容の中間答申がなされました。

その成果を踏まえ、平成 19 年度には予備調査設計に、国（厚生労働省）に浄水方法の変更認可を受けて平成 20 年度には実施調査設計に、その後、浄水施設の工事に着手する予定です。

鞍手町水道水質改善検討委員会は、概算事業費がわかった時点で、事業費の検討(1. 水道料金の検討、2. 事業費の検討、3. 起債の検討)を行い、その検討結果が最終答申となりますので、それをもって終了となります。

2. 経費節減等の取り組み

平成 18 年度水道料金において、現年度分収納率は 99.22%で、滞納分は 83.84%となっています。未納者に対しては納付催告や給水停止等の処置を実施していますが、この取り組みを継続していきながら、会計収納対策課と連携し徴収対策に取り組んでいくことを視野に入れ、収納率が 100%となるよう努めていきます。

鞍手町下水道事業 中期経営計画に基づく取り組みについて

(平成17年度～18年度)

■中期財政計画について

①収益的収支

(単位：千円)

項 目	平成17年度		平成18年度	
	計画	決算	計画	決算見込
営業収益	13,355	12,954	21,098	17,111
料金収入	13,230	12,829	21,037	16,906
その他	125	125	61	205
営業外収益	104,038	87,418	116,781	84,801
一般会計補助金	92,185	74,848	105,775	69,804
その他	11,853	12,570	11,006	14,997
収入 合計	117,393	100,372	137,879	101,912
営業費用	70,162	51,174	70,396	47,697
人件費	13,555	13,404	13,555	13,843
その他	56,607	37,770	56,841	33,854
営業外費用	47,231	47,230	67,483	53,253
企業債利息	46,957	46,956	67,183	52,828
その他	274	274	300	425
支出 合計	117,393	98,404	137,879	100,950
収 支		1,968		962

平成18年度の経常収支予測は、収入支出それぞれ137,879千円と計上してありますが、962千円の利益となりました。営業外費用等の減額に伴うものです。

②資本的収支

(単位：千円)

項 目	平成17年度		平成18年度	
	計画	決算	計画	決算見込
企業債	237,500	323,900	275,000	358,000
国庫補助金	200,000	200,000	200,000	200,000
その他	121,290	133,501	90,860	107,710
収入 合計	558,790	657,401	565,860	665,710
建設改良費	500,000	598,611	500,000	599,851
企業債償還金	58,790	58,790	65,860	65,859
支出 合計	558,790	657,401	565,860	665,710
収 支		0		0

■主な取り組みについて

1. 下水道の現状

平成 18 年度末で、全体計画区域 850 ヘクタールのうち、供用開始区域 125 ヘクタール、整備済面積 151 ヘクタールで整備率は 17.8 パーセントであります。処理人口につきましては、行政人口 18,419 人のうち、処理人口が 4,100 人で普及率 22.3 パーセントであります。その内、約 2,700 人の方が下水道を利用されております。

2. 経営基盤への取組

(1) 下水道使用料収納率の向上

口座振替制度の促進を図り、収納率の向上を図っております。

(2) 建設コスト及び管理コストの縮減

下水道経営の効率化を図るため、新たなコスト縮減項目の掘り起こしを行いながら、建設コスト及び管理コストの縮減を平成 17 年度より実施しております。

(3) 下水道使用料の見直し

一般会計からの補てんを削減し、受益者負担金の原則に近づけるため、平成 19 年度まで検討いたします。

3. 経営削減等の取り組みによる効果

職員の削減により、平成 19 年度より 6,200 千円の削減効果が見込まれます。

4. 今後の取り組み

今後は、住宅密集地である、中山地区(北区・南区・西区・幸町区・城ヶ崎区・新中山区・い牟田区)の整備を積極的に進めていき、町民一人ひとりが生活の豊かさを実感できる、ゆとりと潤いのある居住環境の形成を目指して、下水道整備に取り組んでいきます。

鞍手町病院事業 中期経営計画に基づく取り組みについて

(平成17年度～18年度)

■中期財政計画について

①収益的収支

(単位：千円)

項目	平成17年度		平成18年度	
	計画	決算	計画	決算見込
病院事業収益	2,765,891	2,765,891	2,691,637	2,635,286
医業収益	2,660,489	2,660,489	2,589,036	2,527,923
入院収益	1,698,087	1,698,086	1,662,683	1,600,744
外来収益	856,229	856,229	820,353	822,461
その他医業収益	35,173	35,174	35,000	33,718
他会計負担金	71,000	71,000	71,000	71,000
医業外収益	105,401	105,402	102,600	107,363
受取利息配当金	294	295	100	90
その他医業外収益	7,658	7,658	6,000	9,126
他会計負担金	97,449	97,449	96,500	98,147
特別利益	1	1	1	0
病院事業費用	2,923,235	2,923,234	2,623,865	2,625,897
医業費用	2,819,775	2,819,775	2,527,910	2,529,962
給与費	1,274,275	1,274,275	1,259,104	1,244,601
退職金	327,028	327,028	22,983	97,709
退職給与引当金	0	0	50,000	0
材料費	675,464	675,464	645,589	629,238
減価償却費	163,887	163,887	167,202	166,098
資産減耗費	247	247	1,000	583
研究研修費	4,006	4,006	5,000	4,023
経費	374,868	374,868	377,032	387,710
医業外費用	103,460	103,459	95,955	95,935
企業債利息	51,610	51,610	46,491	46,453
雑損失	51,850	51,849	49,464	49,482
特別損失	0	0	0	0
固定資産売却損	0	0	0	0
医業収支	▲159,286	▲159,286	61,126	▲2,039
総収益	▲157,344	▲157,343	67,771	9,389
前年度繰越利益剰余金	110,820	105,820	▲2,089	▲7,089
当年度未処分利益剰余金	▲46,524	▲51,523	65,682	2,300
建設改良取崩	44,435	44,435	0	0

平成18年度の経常収支予測は、67,771千円の利益を見込んでいましたが、9,389千円の利益に留まりました。

診療報酬の3.16%のマイナス改定や患者数の減少が主な原因です。

②資本的収支

(単位：千円)

項目	平成17年度		平成18年度	
	計画	決算	計画	決算見込
資本的収入	62,352	62,352	82,952	70,896
他会計負担金	44,272	44,272	51,952	53,001
特別利益	2,180	2,180	1,000	2,595
企業債	15,900	15,900	30,000	15,300
資本的支出	204,902	206,565	250,433	241,843
企業債償還金	171,622	171,621	204,433	204,433
建設改良費	33,280	34,944	46,000	37,410
資本的収支	▲ 142,550	▲ 144,213	▲ 167,481	▲ 170,947

■主な取り組みについて

1. 診療科の取り組み

平成18年7月より週一回の泌尿器科と回復期リハビリテーション病棟40床を東3病棟に開設しました。

【泌尿器科】

7月から3月までに延べ708人の患者に診療を実施し、入院569千円、外来10,675千円の収入を得ました。

【回復期リハビリテーション病棟】

7月より358人の患者に延べ7,672日間の入院診療を実施し、169,834千円の入院収益を得ました。

2. 設備投資

平成18年度に購入予定にしていた乳房撮影装置とCR装置を導入しました。

乳房撮影装置 9,800千円

CR装置 2,800千円

3. 経営健全化への取り組み

目標の達成や職員の経営参画意識の高揚を促すため、掲げた目標は概ね良好な結果が得られました。

	項目	成果評価指標	16年度	17年度	18年度
患者満足度	地域医療ニーズの把握	当町の患者の受診増加(国保金額)	入院 43% 外来 31%	入院 39% 外来 32%	入院 37% 外来 32%
	医療に関する患者満足度	アンケートによる患者満足度の向上	満足 70%	満足 97%	満足 98%
	環境に関する患者満足度	アンケートによる患者満足度の向上	環境 51% 接遇 80% 食事 39%	環境 87% 接遇 99% 食事 78%	環境 92% 接遇 99% 食事 85%
財務	収支の良化	診療報酬単価の上昇	入院 27,996円 外来 10,593円	入院 28,591円 外来 11,450円	入院 28,229円 外来 11,483円
		平均在院日数の短縮	23.2日	22.5日	21.6日
		未集金の減少(※)	0.12%	0.13%	0.22%
		査定減の減少(※)	0.32%	0.35%	0.21%
		人件費率(※)	52.0%	49.9%	51.4%

プロセス	医療の質の統一	クリティカルパス作製数 増加及び適用率の向上	パス数 35 件 適用率 %	パス数 38 件 適用率 23 %	パス数 50 件 適用率 33 %
	安全な医療の提供	安全管理責任者の設置	—	—	—
	新規患者の獲得	救急搬送患者数の増加	595 件	568 件	659 件
人材	専門医の確保	消化器、糖尿医の確保	—	—	—
	基礎力の向上	専門資格等の取得	—	別記	別記
	企画部門機能強化	問題点への迅速な対応体制の構築	—	別記	別記

【別記 1】人材の視点 基礎力の向上 専門資格等の取得

- ・ N S T 認定医 医師 2 名取得
- ・ 認定看護管理者制度ファーストレベル 看護師 1 名

【別記 2】人材の視点 企画部門機能強化 問題への迅速な対応体制の構築

3 人体制になり、新規取り組みや問題点の早期把握、協議、検討及び改善の実施が迅速に行えるようになった。

泌尿器科開設、回復期リハビリテーション病棟開設、亜急性期病棟開設、療養病床の再編検討、一般病棟上位基準取得検討など

4. 経費削減等の取り組み

【回復期リハビリ病棟の取組】

平成 18 年 7 月より開設しましたが、看護師不足のため、患者を入院させることができない期間が発生してしまい、1 日平均で 28 人の入院患者数となりました。

しかしながら、取り組みを行うことによって、収入が 57,782 千円増加しました。
(支出についても 3,991 千円増加。)

鞍手町介護老人保健施設事業 中期経営計画に基づく取り組みについて
(平成17年度～18年度)

■中期財政計画について

①収益的収支

(単位：千円)

		17年度		18年度	
		計画	決算	計画	決算見込
収益的 収入	施設運営事業収益	239,817	239,817	241,425	243,762
	介護保健施設サービス費 収益(短期含)	169,713	169,713	160,625	165,518
	通所リハビリテーション 費収益	27,949	27,949	31,612	32,149
	室料差額収益	2,171	2,171	2,183	2,048
	入所者利用料収益	34,277	34,277	39,376	36,879
	通所者利用料収益	5,580	5,580	7,491	6,955
	その他施設運営事業収益	127	127	138	213
	施設運営事業外収益	48,387	48,387	46,981	43,686
	うち他会計補助金	48,022	48,022	46,800	43,222
	特別利益	0	0	0	0
収益計		288,204	288,204	288,406	287,449
収益的 支出	施設運営事業費用	267,433	267,433	273,913	263,512
	給与費	153,495	153,495	157,005	145,841
	材料費	19,525	19,525	20,317	21,469
	うち給食材料費	14,363	14,363	14,774	15,474
	経費	56,389	56,389	59,522	58,972
	減価償却費	37,886	37,886	36,801	37,080
	その他費用	138	138	268	150
	施設運営事業外費用	12,349	12,349	13,764	13,577
	うち支払利息	9,265	9,265	9,101	9,101
雑損失	3,804	3,084	4,663	4,476	
特別損失	0	0	0	0	
費用計		279,782	279,782	287,677	277,089
施設運営事業収支		-27,616	-27,616	-32,488	-19,750
施設運営事業外収支		36,038	36,038	33,217	30,109
総収支		8,422	8,422	729	10,359
前年度繰越利益剰余金		42,904	42,904	51,326	50,326
当年度未処分利益剰余金		51,326	51,326	52,055	60,686

平成18年度の経常収支予測は729千円の利益を見込んでいましたが、10,359千円の利益となりました。介護報酬の改定による加算の取得に伴う収益の増収及び職員の退職等に伴う給与費等の減額によるものであります。他会計補助金は3,578千円の減額となっております。

②資本的収支

(単位：千円)

	17年度		18年度	
	計画	決算	計画	決算見込
資本的収入	3,116	3,116	10,831	10,860
企業債	0	0	0	0
他会計出資金	3,066	3,066	10,830	10,830
その他	50	50	1	30
資本的支出	6,811	6,811	52,360	34,013
企業債償還金	6,132	6,132	21,660	21,660
建設改良費	679	679	700	299
その他	0	0	30,000	12,055
資本的収支	-3,695	-3695	-41,529	-23,153

平成18年度の資本的収支予測は41,529千円の不足額でありましたが、10床増床改修工事費等が12,055千円となり不足額23,153千円となりました。不足額につきましては、当年度損益勘定留保資金で補填しました。

■主な取り組みについて

1. 施設利用者増加の取り組み

通所利用者平均25人で計画していましたが、平成18年度は通所利用者平均22.5人となっており、平成17年度と比較しますと1日平均2.1人の増となっています。

通所リハビリテーションにつきましては、近隣の施設利用状況等を踏まえ平成19年4月より土曜日を開設し、利用者増を図るようにしています。

2. 設備投資

計画では、10床増床改修整備事業に30,000千円を予定していましたが、12,055千円で改修整備事業を完了しています。

3. 経営健全化への取り組み

施設運営事業収支状況を詳細にして職員への周知等を図り、経営感覚の定着及び意識の高揚に努めるようにしています。

また、利用者の満足度を図るため、平成19年度にアンケート調査を実施するよう準備をしていますが、平成18年度には、入所者・通所者に給食における嗜好調査を実施しています。アンケートの結果を基に、利用者の方々に満足していただけるような献立、味付けを検討していきたいと考えています。

4. 経費削減等の取り組み

【増収への取組】

10床増床の整備計画について、平成18年12月に福岡県の許可があり、3月に改修整備事業が終了いたしました。平成19年4月1日より60床で運営を実施し、収益の増加につながるよう取り組んでいきます。